

平成26年度学校評価(自己評価) 結果

4・・・よくできた 3・・・できた 2・・・あまりできなかった 1・・・できなかった

教育方針

「創造・友愛・清浄」の校訓を具体的に実践し、「こころ豊かで自立した人づくり」を行う。

経営目標

- ① 基礎学力の定着を図り、自己を生かし、個性や創造力を伸ばす人づくり
- ② 命と人権を大切に、共に生きるこころ豊かな人づくり
- ③ 自尊感情を高め、社会の中で自立し、清く正しく生きる人づくり
- ④ 家庭や地域社会と連携し、地域から愛され信頼される開かれた学校づくり

番号	領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果・課題	本年度	
1	学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校のホームページが充実され、必要に応じて情報発信が行われているか。	3.2	
2				補助教材『魚吹』や「年次通信」の内容充実にも努めているか。	3.3	
3				保護者会や懇談会の案内等、保護者宛文書の内容が工夫されているか。	3.1	
4			学校評議員制度を活用した学校運営の推進	学校評議員より積極的に意見を聴取し、学校評議員会の意見を学校運営に反映させていると思われるか。	2.5	
5			地域や関係機関との連携	「地域とふれあう公開講習会」等をとおして、地域や関係機関との連携を深めているか。	3.1	
6		生徒指導	生徒指導方針の明確化	年度当初に生徒指導方針を明確にし、職員・生徒に示すとともに、生徒の問題行動等に適切に対応しているか。	2.9	
7			生徒の理解を図る指導の工夫	カウンセリングマインド研修を生かし、生徒に接しているか。	2.9	
8				キャンパスカウンセリングを有効に活用しているか。	3.2	
9				面接やＬＨＲにおいて生徒理解に努め、生徒の家庭環境や健康状態を把握し、個々の実情に応じた指導に努めているか。	3.4	
10			生徒の自主・自立の精神を育む指導の工夫	部活動やスポーツタイム・新入生歓迎交流会等の生徒会行事に、生徒が自発的・自立的に取り組めるよう努めているか。	3.0	
11		進路指導	進路指導体制の充実	「年間進路指導計画」を作り、組織的・計画的な進路指導が行われているか。	3.2	
12				通信制生徒の実態を踏まえ、資料の改善・充実が行われているか。	3.1	
13			職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	通信制生徒の実態を踏まえ、職業観や勤労観の育成に役立つ取組を行っているか。	3.1	
14				通信制生徒の希望と実態に見合った「進路説明会」などが企画・実践できているか。	3.2	
15			主体的な進路選択能力の育成	「総合的な学習の時間」やＬＨＲ、「生活体験発表会」等の学校行事を通じて、生徒の進路選択能力の育成が図れているか。	3.1	
16				「卒業予定者進路希望調査」等を実施し、個に応じた進路指導が行われているか。	3.3	
17			教職員の資質向上	実践的指導力の向上	レポートについての研修を行う等、教科指導を行うための自己研鑽に努めているか。	3.1
18				計画性を持った研修の実施	進路・教務・生徒指導等、学校の諸課題について校内研修が計画的に立案・実施できているか。	2.9
19					教員は外部研修に積極的に参加しているか。	2.8
20				社会の変化に対応した教育観の育成	通信制課程の特性を考慮し、現状分析や改善、特別支援教育に関する有意義な研修が行われているか。	2.9
21		年次経営	1 年次・学級経営	オリエンテーションや「学習タイム」等への参加呼びかけを通じて、学習意欲の喚起・学習習慣の定着に努めているか。	3.1	
22				年次通信等によりスクーリング・行事への参加を促し、学校生活への適応を図るとともにリーダーの育成に努めているか。	3.0	
23				カウンセリングマインドに拠る個人面談等により生徒理解・指導に努めているか。	2.9	
24			2 年次・学級経営	スクーリングや「学習タイム」、「年次通信」、「学習進捗表」を通して、学習意欲を高めたり、学習の継続を促したりなどの努力をしたか。	3.0	
25				学校行事やＬＨＲの参加を呼びかけ、社会性やコミュニケーション能力を高めるための取組ができたか。	3.0	
26				生活体験発表会を機会に自己を見つめさせ、自分の生き方や進路を考えさせることができたか。	3.0	
27			3 年次・学級経営	スクーリングや「学習タイム」等への参加を呼びかけ、学習習慣の定着と基礎学力の向上に努めているか。	3.1	
28				学校行事やＬＨＲ等を通して、仲間との交流を図り、自己肯定感を高める取組が推進できたか。	3.2	
29				卒業後の進路について考えさせ、個に応じて進路選択・決定を支援するよう努めているか。	3.2	
30			4 年次・学級経営	年次通信等でスクーリングや学習タイム等への参加を呼びかけるなど、学習習慣の定着と基礎学力の向上に努めているか。	2.9	
31				参加型のＬＨＲ等を通して、コミュニケーション能力を高め、自己肯定感を高める取組が推進できたか。	3.1	
32				卒業後の進路について考えさせ、個に応じて進路選択・決定を支援するよう努めているか。	3.1	
33	教育課程	基礎基本の定着と問題解決的な学習の展開	レポートやスクーリングにおける面接指導が多様な生徒の実態に応じており、自学自習のシステムが「基礎基本の定着をはかり、自ら学び自ら考える力を育成する」ものとなっているか。	3.1		
34		個に応じた学習指導	評価方法の創意工夫と指導形態の工夫	評価の基準や基準について教科内で話し合い、生徒の実態に応じたシラバス作成や生徒による授業評価による授業改善が行われているか。	2.8	
35				オリエンテーション、「学習タイム」、質問等において、個に応じた学習指導が行われているか。	3.3	
36	課題	危機管理	危機管理体制の充実	危機管理マニュアルや対応訓練の評価・改善に努めているか。	2.6	
37				生徒の個人情報の管理が徹底され、漏洩防止が図られているか。	2.8	
38		防災・安全教育	防災教育に係る指導力・実践力の向上	事前に打ち合わせを十分に行い、意識の高い防災教育が行えているか。	2.7	
39				心肺蘇生法等の講習により、いかなる時もまず生徒の命を守るという意識と技術を高めるよう努めているか。	2.9	
40			実践的な安全教育への取組	特別活動や授業等において救急救命訓練を行ったり、地域の学校や警察と連携し、「防犯教室」を開催したりするなど安全な学校づくりのための実践的な取組に務めているか。	2.5	
41				補助教材『魚吹』や年次通信等において、系統的で実践的な安全教育に努めているか。	3.0	
42		人権教育	人権教育体制の充実	人権教育委員会を開き、人権教育の改善・充実にも努めているか。	3.1	
43			人権意識の構築	生徒が活動や体験を通して人権意識を身につけ「共生社会」の構築の意識を持たせ、自己実現できるよう工夫しているか。	2.9	
44		特別支援教育	校内支援体制の充実	校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名、研修等、支援体制を整備しているか。	2.6	
45			個別の指導計画	特別な支援を必要とする生徒について、個別の指導計画に基づいて適切に支援しているか。	2.5	
46		健康管理	生徒の健康管理への取組	健康診断や各種検診の受診率の向上を図り、生徒の健康管理に努めているか。	2.9	
47			生徒の健康に対する意識の高揚	面接指導や補助教材『魚吹』等をとおして、生徒が主体的に健康づくりに取組む習慣を身に付けるよう努めているか。	3.0	
48			学校環境整備への取組	清掃活動により、校舎内外の美化・環境衛生の維持に努めているか。	3.3	
49			安全管理体制の充実	定期的に施設・設備の安全点検を行い、事故防止対策が行われているか。	3.3	
50	学校の個性化・多様化	生徒の多様化への対応	年齢構成や不登校経験生徒の割合等、毎年数量的なデータをもとにその対応を検討しているか。	2.5		
51			生徒の基礎学力をつけるために生徒の実態をもとにレポート内容やスクーリングの面接指導の在り方について検討を行っているか。	2.8		
52			家庭や保護者との連携に努めているか。	3.2		
53		外部機関との連携	県立神出学園、県立山の学校、出身中学校等と協力して指導に当たるよう努めているか。	2.5		
54	若者自立支援に向けて地域機関やキャンパスカウンセラーと協力して指導に当たる体制が取れているか。		2.8			
55	個別指導	各教員の学習指導	添削指導	補助資料を作成し、生徒の自学自習をできるよう指導できたか。 各レポートを1週間以内に返却し、ていねいな添削を行えたか。	3.4	
56			面接指導	各スクーリングにおいて効果的な指導を行い、生徒の学習理解を促進できたか。	3.3	
57			担任としての指導	担任クラスの個々の生徒の状況を把握し、悩みを開き、保護者と連絡をとりながら的確な指導ができたか。	3.3	

平成26年度 学校関係者評価

通信制課程

4＝評価できる 3＝やや評価できる 2＝努力を要する 1＝取組の見直し（評価欄に数字をご記入下さい。）

	評価の観点	具体的な実践目標	評価
1	開かれた学校づくり	学校の教育方針および教育内容が保護者や地域に情報発信できているか。また、通信制高校として地域との連携を進めているか。	3.0
2	生徒指導	生徒理解に努め、生徒の自尊感情を培い、倫理観の育成と人間尊重の精神に基づく教育の充実に努めているか。	3.4
3	進路指導	自学自習を基本に、将来を展望しながら学び続ける資質を養い、望ましい職業観や勤労観を育みながら、自己実現を図る能力を育成する教育が行われているか。	3.8
4	教職員の資質向上	教職員の資質向上の取組が適切であるか。	3.4
5	年次経営	各学年の経営方針の下に、適切な年次経営が行われているか。	3.6
6	教育課程	通信制課程に対応した適切な教育課程を実施、適切な学習指導が行われているか。	3.4
7	危機管理	危機管理体制の充実が図れているか。	3.0
8	防災・安全教育	防災教育・安全教育の充実が図れているか。	3.4
9	人権教育	人との絆を大切にする豊かな心を培う教育を推進し、「共生社会」の実現を目指す取組が進められているか。	3.4
10	特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒に対しての支援体制の充実のに向けた取組が行われているか。	3.2
11	健康管理	生徒の健康管理と健康意識の高揚を目指した教育ができているか。	3.6
12	学校の個性化・多様化	多様な生徒に対応した通信制高校としての個性化・多様化が推進できているか。	3.4
13	各教員の学習指導	各教員が通信制高校の生徒に適切な添削指導、面接指導、担任としての個別指導をすすめられたか。	3.6
意見	・卒業記念誌「波濤を越えて」を読ませていただいて、全日制高校へ何らかの理由で進学をあきらめた生徒たちが、網干高校通信制課程で先生方の熱意を感じ、学習に目覚め学ぶ喜び、卒業に向かって取り組む生徒たちの意欲が伝わってきました。先生方のご苦勞が花咲いていると感じました。これからも未来明るい青年たちを育ててください。 ・先生方のご苦勞にあらためて敬意を表します。 ・来年度は更に多くの項目の評価が「評価できる」になるよう一層の改善を進めてください。		

平成27年度に向けた具体的な取組・改善方策等

通信制課程

領域		評価の観点	通信制課程の現状/達成状況・具体的な取組・改善方策等
学校運営	1	開かれた学校づくり	毎月発行の補助教材『魚吹』や年次通信の内容の充実を図っている。 地域住民に案内を出し、生徒と共に受講する「地域とふれあう公開講習会」は今年度22年を数え、通信制課程についての地域の理解が深められている(ボイストレーニング、自力整体、まきまきロールケーキ、生チョコ作り、手打ちうどん、手品、ちぎり絵、プリザーブドフラワーの8講座で平成26年6月9日(日)に実施)。ホームページの運営は、担当者教員を増やし組織的に取り組みたい。
	2	生徒指導	評価は昨年度に比べ向上したが、生徒の登校が少なく、生徒個人の実態がつかみにくい状況は続いている。平成26年度の問題行動はカンニング、喫煙、ネットに関するトラブル等。生徒の気質が変わってきたためか、生徒主体の行事の参加者が減少している傾向にある。次年度は、校内での生徒のマナー指導において、教員の共通理解を図る取組を進める必要がある。
	3	進路指導	全般的に評価は昨年同様良好だった。キャリア育成を図るインスパイア・ハイスクール事業、1・2年次の生徒のネットの危険性を知るLHRの取組、学校幹旋による就職者が9名内定と早い段階での就職指導を行い成果を上げた。次年度もさらにこの取組を充実させていく。 3月10日現在、神戸市外大等大学に8名、神戸女短等短期大学に3名、法政大等通信制大学・短大に2名、神戸市医師会看護学校等専門学校に8名が進学
	4	教職員の資質向上	平成26年度職員研修会年8回実施：5月(健康要注意生徒、生徒指導上注意を要する生徒の情報交換)、6月(レポート研究会、教科は体育)、(心肺蘇生法講習会)、8月(ストレスマネジメント：関西福祉大講師、全日制と合同)、9月(視聴覚、近通研究発表内容)、12月(特別支援教育：兵庫教育大・姫路しらさぎ特別支援より講師)、(人権教育教育)、1月(キャンパスカウンセラーによるカウンセリングマインド研修) 各教員の資質向上に関する研修意識は高いため、各教員の意見を集約し、次年度はより実りある研修を実施していく。
	5	年次経営	各年次とも学年の課題に正対し真摯に取り組んだ。特別な支援を要する生徒に対して、通信制という学習形態のため、コミュニケーションとる手段の不足に歯がゆさを感じている。情報共有を次年度もさらに進める必要がある。 今年度の11月の人権LHRは指導訪問で指導主事に通信制の実態を見てもらえた。参加者は少なかったが、それぞれが多くの課題をかかえながらも熱心に取り組んでいる様子を見てもらえた。
教育課程	6	自ら学び自ら考える力の育成 個に応じた学習指導	能力的に非常に高い生徒、中学時代に不登校で学習がほとんど行われていない生徒、発達障害傾向の生徒など様々な生徒に対応した教科指導が求められる現状がある。平成27年度に開講科目が新指導要領科目に完全移行の予定。 成績評価についての内部評価に基づき、成績評価基準については次年度も検討しなければならない。
課題教育	7	危機管理	本年度は、耐震化の工事が始まり生徒の動線の変更を余儀なくされた。次年度は本體工事也开始するので連絡を密にし、安全に学校生活ができるようにする。 職員の危機意識を高め、失敗を失敗に終わらせず、すぐに問題点を追及し、各分掌で検討し、改善策を出す。
	8	防災・安全教育	今年度の防災行事は全日制、通信制独自に行ったが、来年度は合同で避難訓練を行う予定。 5月19日の防災LHRは、防災についてグループ討議を通じて理解を深める内容で参加した生徒の意識を高めることができた。 生徒の登校日が少なく、しかも登校は生徒に委ねられていることを考えると、継続的な指導や実践的な指導計画を立てにくい一面が評価に反映している。
	9	人権教育	11月2日(日)・3日(月)に各学年で人権LHRを体取組んだ。1・2年(ネットの危険性)、3年(結婚)、4年(幸福)。工夫された人権教育学習のため、評価は良好であった。次年度も限られた時間で実施せざるを得ないため、工夫した人権学習会を行う。
	10	特別支援教育	中学校からの申し送りがまったくない状況もあり、対応生徒の情報を如何に得て指導に生かすか、各教師が模索している段階である。12月に県立特別支援教育センターの支援を受けて兵庫教育大と姫路しらさぎ特別支援の先生に来てもらって研修会を持ち、個別の対応方法について研修会を持った。カウンセリングマインド研修は毎年、キャンパスカウンセラーの先生にお願いして、1月に実施した。次年度は、中学校からの支援計画の引継ぎを充実させ支援計画を検討する。
	11	健康管理	生徒の健康に関する意識の向上や健康管理については、機会あるごとに年次通信や『魚吹』で指導している。しかし、毎日学校に生徒が来るわけでないため、各生徒の健康状態が把握できない。 スクーリング前の毎金曜日には全教員総出で玄関・廊下・使用教室等の清掃を行っている。そのため、施設における安全管理は充実している。
	12	学校の個性化・多様化	中学時に不登校であったり、人付き合いが苦手な生徒がますます増加している。 本校に在籍して、山の学校にも在籍なし、神出学園在籍者は3名。両施設と連携協定を結び、平成27年度より単位認定の範囲を最大20単位まで認めるよう改定した。 姫路南少年サポートセンター等外部機関と連携をとり様々な課題に対応できた。 様々な生徒が在籍するので関係機関との連携を更に図っていく必要がある。次年度も生徒理解のおける情報交換の機会を多く持ち、個々の問題ある生徒への対応をさらに充実させていく。
	13	各教員の学習指導	この項目は、今年度新たに加えたので昨年と比較できないがそれぞれの教員が生徒たちに向き合っていることを示している。 各教員は平均12枚の補助資料を作成し、スクーリングやレポートの指導に対応している。 通信制なので毎日顔をあわせないがレポートと通信や電話連絡のやり取りの中で生徒を励まし続けている。